



保健師だより

眼底検査について ～目は口ほどにものを言う～

今年度も各地区の健診が終わりました。健診結果を見て安心している方、来年はもっと数値を改善しようと意気込んでいる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。現在の身体の状態を知り、日頃の健康づくりに役立てることができるものが健康診査（特定健診）ですが、その中で実施している『眼底検査』は何を調べているのでしょうか。

眼底（目の奥）は血管を直接観察できる唯一の場所です。眼底の血管は脳の血管と似た状態であるため、高血圧や糖尿病などの動脈硬化を起こす病気の進行度を眼底の血管の状態から推測することができます。その他、光を感じる網膜や光の刺激を脳に伝える視神経の異常を発見することができます。

眼底検査による高血圧や動脈硬化の度合いを示す分類は数種類ありますが、村で行っている健診ではKeith-Wagener（KW）分類でみています。KW分類は、高血圧によって起こる眼底の変化をⅠ～Ⅳに分類したものです。数字の大きいほうが重くなりますので、ご自分の健診結果を見て下記の部分を確認してみてください。

検査項目		受診年月日	基準値	今回の結果		前年度
				2018年〇〇月〇〇日	判定	
眼 底	右No. KW・出血 その他所見			No.		No.〇〇〇
	左No. KW・出血 その他所見			No.〇〇〇〇〇 Ⅱa 無	軽度異常	No.

健診結果のこの部分です。
隣にある「無」「有」は眼底出血があるかないかです。

【KW分類：高血圧による細動脈の変化】

分類	所見	対策
0	正常	
Ⅰ	軽い細動脈の狭細と硬化	初期の変化で、他の臓器の血管障害はないと判断されます。
Ⅱa	中・高度の硬化	やや進んだ動脈の変化があり十分な血圧管理が必要です。
Ⅱb	網膜静脈の血栓なども伴う	進んだ動静脈の変化。全身の臓器の動脈硬化の予防と血圧管理が必要です。
Ⅲ	網膜の浮腫、白斑出血	血圧が持続的に高く、軽い心・腎機能の障害、心電図異常など全身の異常がある。放置すると悪化するため医師の管理が必要です。
Ⅳ	Ⅲ度よりさらに浮腫が加わる	血圧は著しく高く、心・腎障害が著明。厳重な管理が必要です。

血液検査値などと比べ眼科領域の検査だと思い、あまり気にしていない検査項目かもしれませんが、眼底検査は動脈硬化の検査でもあること、高血圧や糖尿病などと深い関係があることを知っておいてください。また、要医療判定となった方は、「たかが目の異常」などと思わず医療機関を受診しましょう。